

様

年 月 日

IDR・Ara-C（イダルビシンとシタラビン）療法

この治療では次の2種の治療薬を使用します。

イダルビシン（イダマイシン注）：細胞のDNAの機能や合成を妨げ効果を現します。

シタラビン（キロサイド注）：細胞のDNAの合成を妨げ効果を現します。

<投与スケジュール>・・・7日間が1クール

<薬品名>	<投与方法・時間>	<薬の作用>	1クール						
			1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
グラニセトロン注	<静注>	吐き気止め							
キロサイド [®] 生食1000ml	<持続点滴静注 24時間>	化学療法剤							
イダマイシン [®] 生食100ml	<点滴静注 30分>	化学療法剤							
グラニセトロン注	<静注>	吐き気止め							

<薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

--

<副作用>

副作用と症状	発現時期、頻度	対策	メモ
白血球減少 発熱 風邪様症状	1～2週間	うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	—	けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤や輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ めまいなど	—	採血結果によっては、造血剤の使用や輸血を行います。	
心筋障害 疲労感、動悸、息切れ 喘鳴、むくみなど	IDRの総投与量に関係	定期的に心電図などの検査を受け早期発見に努めてください。	
吐き気・嘔吐	投与中～	我慢せずに吐き気止めを使用してください。	
口内炎	—	うがい薬や塗り薬を使います。	
脱毛	2週間～	治療が終了すれば徐々に回復します。気になる方は帽子やスカーフ・かつらなどをお使い下さい。	
血管痛・静脈炎	投与中～	痛みや腫れがあれば、すぐに申し出て下さい。	
下痢・腹痛	—	水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使ったり、点滴をすることもあります。	
その他：過敏症、肝障害、腎障害、肺障害、倦怠感、発熱、結膜炎など			

★ イダマイシンの系統の薬は、治療を継続し、投与量が一定以上を超えると心臓への副作用が強まることが報告されています。一定以下の投与量でも注意が必要です。定期的な心臓の検査を受けるとともに、上記のような症状があればすぐに申し出て下さい。

★ 腎障害の予防のため、水分摂取に心がけてください。

★ ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。もし、副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師、薬剤師、看護師に申し出て下さい。